



## 46才！オンリーワンの立北小

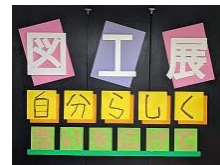
11月2日、46才の誕生日を迎える立北小には4つの『めざす子ども像』があります。創立時、本校の子どもたちにこのように育ってほしいという願いを「た」「ち」「き」「た」を頭文字にして表したもので、各教室にも掲げています。「たくましいからだと心ゆたかな子」「ちからいっぱいがんばる子」「きまりを守りすすんで働く子」「たすけ合いみがき合う子」という4つの子ども像は、46年の年月を経て、今では本校の子どもたちのよい特色として定着しています。例えば、立北の子は、実によく働きます。掃除時には、雑巾に穴があくほど廊下を磨き、場所によっては黒光りしているところもあります。また、10月末の鉄棒認定週間では、手に豆をつくりながら、力いっぱい頑張る子どもたちの姿が沢山見られました。ある日の休み時間、運動場南側の鉄棒が6年生でいっぱいになりました。苦手な子の



頑張りを友達が応援し、技ができた時は大変な盛り上がりでした。高学年たちがよい姿を示し、低学年たちがそれに続く…。創立以来、長い年月を経て、たくましく心ゆたかな子どもたちの姿は、他校にはない立北小の自慢です。

## 図工展 ～自分らしく思いを広げて～

令和6年度の立花北小学校「図工展」がいよいよ迫ってきました。本校では、日頃から自分らしく表現する楽しさを大事にしながら、造形教育に取り組んでいます。図工室や教室の様子を見ていると、子どもたちはまわりの友達を気にせず、自分の作品作りに没頭する姿が至る所で見られます。「体育」が体の表現であるなら、「図工」は心の表現です。この週末は、ぜひ、子どもたちの作品をご覧ください、子どもたちの思いにぜひ耳を傾けてください。



## 冬に向かう「寒冷順化」を！

寒い季節に入ってきました。『冷えは万病のもと』という言葉がありますが、そもそもヒトの体は、心臓や肺などの命に関わる大事な臓器がある体幹部分を冷やすと、脳から保温・発熱を促す指令が出ます。ところが、子どもは体温調節能力をつかさどる自律神経が未発達なため、熱を作りすぎてしまうことがあります。すると今度は脳が熱を下げる指令を出します。子どもたちは、これらのことをくり返しながらか、暑さと寒さの差が大きなこの国で生きる大切な機能を身につけていきます。この時、外気の寒暖を感じ取り、脳に情報を送るセンサー的役割を果たしているのが腕や脚なので、寒くなったからといって、厚着で手脚を隠してしまうことは、子どもたちにとって好ましいことではありません。昔の大人たちは、このことをよく知っていたのか、家の中でじっとしている子がいたら『子どもは風の子』という言葉で寒い戸外に追い出しました。これは、昔の人たちが子どもの体の機能を高めるための知恵といえるでしょう。しかし、時代が変わり、子どもに熱を出させにくい社会となりました。先日、半袖シャツの上から「ベスト」を着て登校してくる子どもがいました。「ベスト」は、体幹は冷やさずにセンサーを外に出しておけるなかなかよいアイテムです。睡眠時も寝冷えを防ぐのにとても有効です。冬に向かっていく季節、子どもたちの体の「寒冷順化」のために取り入れてみてはいかがでしょうか。